

東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第3回）会議録

1. 開催日時

平成22年4月22日（木）午前9時から

2. 開催場所

会議棟 第2会議室

3. 出席者

委員 青野かほる 荒川進 小川雅義 高嶋清和
渡辺理万 菊地明 菊地フミ子
事務局 小島学校教育部長 田代学校教育課長
山崎学務係長 石原主任

4. 公開・非公開の別

公開

5. 傍聴者数

0人

6. 議題

- (1) 人事異動に伴う職員紹介等
- (2) 大規模校（第八小学校）視察
- (3) 第八小学校の規模等について、検討・まとめ
- (4) その他

7. 会議の要旨

- (1) 人事異動に伴う職員紹介等

①学校教育部長・学校教育課長挨拶

②資料配付

- ・インターネット記事「学校の適正規模を説明 6校区で田辺市教委」
- ・指定学校変更承認基準（平成21年10月1日改正）
- ・区域外就学承諾基準
- ・小・中学校児童・生徒数推計（H22.4.1現在）
- ・東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第1回）会議録
- ・東大和市学校規模等のあり方検討委員会（第2回）会議録

(2) 大規模校（第八小学校）視察

①校舎視察・校長説明

校 長：余裕教室がないところを見ていただきたい。

4年生は、2階3階にまたがっている。好ましくないが、やむをえない。

低学年用の楽器類は、廊下に置いている。

音楽室は、昨年まで2つあったが、今年度から1つになった。

放送室のスタジオがP T A会議室になった。

3年生少人数教室を、やむをえず以前P T Aが使っていた部屋に移した。

校 長：今年度は、21学級でスタートした。

少人数教室は、やっと2つ確保した。4学級を5分割している。

八小でも十小でも通学できる調整区域を設けていただいた。

視聴覚室は、比較的広い。英語の教材を置いている。

24学級になると、少人数教室や会議室、P T Aの場所がなくなってしまう。

②校長への質疑

・委 員：職員の会議は、どこでやるのか。

校 長：視聴覚室でやる。視聴覚室は多目的で使う。

・委 員：不登校の児童に対する支援室はあるのか

校 長：ない。保健室、職員室の隣の校長室で対応している。

・委 員：少人数学級としては、4学級を5分割や、3学級を4分割ではあまり効果がないのでは。校長の希望は。

校 長：教室をもっと多く使い、個別対応ができればよいが、今は、担任が工夫しながら授業を進めている。

・委 員：少人数学級は、能力別に行っているのか。

校 長：学年によって違うが、単純分割のときもあるが、能力別にすることもある。

・委 員：音楽室が1つしかないが、音楽会の前など、全体で練習するときに不自由しているのではないか。

校長：21年度までは、第2音楽室があった。低学年は教室でやっている。音楽室は、もう1つ欲しい。音楽会前は、視聴覚室で練習することもある。22年度は、21学級となり、音楽の講師がきたが、1・2年生は教室で教えている。3年生は視聴覚室を使用している。

- ・委員：教室は、どのくらい足りないのか。自分は、音楽室が1、会議室が1、少人数学級が低、中、高学年で1つずつ、教材室が2足りないと思う。

校長：学年と学年の間に、自由に使える余裕スペースが1室ずつあれば理想である。教育相談室もあればいい。

- ・委員：PTA会議室は、たくさんの人の出入りがある。別の場所に移すことはあるのか。安全上の面から端のほうがいい。少人数学級を他に移せば、PTAの部屋にできる。

校長：放送室のスタジオをPTA会議室にしている。別にしたほうがいいが、場所がない。無理を言ってPTA財産をスタジオに納めている。

- ・委員：調整区域を設定したが、十小に行きたがらない理由は、何とthinkか。

校長：八小と十小は距離としては変わらない。兄弟関係、友達関係等があるのではないか。

- ・委員：大規模校のメリットは何か。

校長：子供たちが切磋琢磨して運動会も迫力がある。クラス分けのときも、単学級と比べると選択肢が広がる。子供の面では良いが、施設面ではさらに改善が必要である。

(3) 第八小学校の規模等について、検討・まとめ

- ・委員：今日、八小を見たが、感想と意見をまとめる。

今回、大規模校を見た良さや、我々が子供たちにできること、また、小規模校を見た良さ、通学区域を変更した地域を見て、マイナス面などを含めて、本来、子供たちにあった理想的な学校規模、学級規模、施設規模をまず出すことが第一段階である。

それを踏まえたうえで、東大和の現状を見て、その理想に少しでも近づける指導ができればと考えている。

- ・委員：普通の学校にあるべき教室がない。低学年生活室がない。視聴覚室では、PTAも頻繁に使用するので、子供の活動に支障がでてくると思う。施設がないのは、子供にとっても、学校にとっても、マイナスである。これ以上増えた場合には、プレハブの増設ぐらいしかない。調整区域があるが、十小へ行った子がいない。希望して新しい学区の所へ行く子供も親もいない。
- ・委員：少人数学級の話をして、かわいそうだった。4学級を5分割しても、あまり意味がない。2学級を3分割が理想である。小規模校になると1学級を2分割している。大規模校では、ねらい通りの少人数指導ができない。
- ・委員：八小の区域にマンションが建つ予定はあるのか。
事務局：今のところ市都市計画課には入っていないとのことである。小さいものはあるかもしれないが。
- ・委員：八小の学年3学級、4学級は大規模校として、子供の人数は理想的だが、施設が適正でない。これから大規模校、小規模校を見ていくなかで、理想的な子供1人に対する面積を考え、それに近づけていく方向が必要である。
- ・委員：学校の中に、オープンスペースがあったり、大きな図書館があったり、特別教室が2つあるような地域がある。ずっとここで育った市民の方は、1クラスに1教室あればなんとかなるんじゃないかと考えていると思うが、今の新しい教育を考えると、それでは足りない。
- ・委員：八小は、多目的室が欲しいと言っていた。文京区の窪町小学校では、マルチの部屋がずいぶんある。ひとつ自由に使える部屋はぜひ欲しい。
- ・委員：小一プロブレムのような社会状況がある。教育は、人の手を尽くすことである。少人数学級ができるような状況を作ってあげたい。音楽室がもうひとつ欲しい。
- ・委員：特別な指導を要する子を指導する部屋がない。特別支援室のような部屋は、今の時代の中で必要だと思うが、八小ではその流れが止まっているように感じた。

- ・委員：学級数3から4は適正規模。校長が管理でき、充実した教育ができる。八小の場合は、子供の数が適正であるが、施設が適正ではない。適切に規模が整っていない学校施設をどうするかという視点であると思う。そうすると1点目は施設を増築することになる。図書室の前のスペースが物理的には、増築可能ではないか。増築すれば、施設の充実してくる。2点目は十小と八小の調整区域が機能していないのであれば、調整区域ではなく、調整区域を若干北に延伸させ、強制的に学区変更とする。この2つしか解決する方法はないのではないかと。
- ・委員：学区域の見直しの検討となると、市全体の問題である。非常に小さくなっている学校と、マンション等の建設が進む、駅周辺や、二小、八小あたりでは、生徒数が増えている。市全体をみて長期的に考える。市全体をみると凹凸がある。
- ・事務局：この会議は、最初の会議で話をしているが、自由な意見を聴く会である。他の大規模校や、小規模校や、他市の参考になるところを見ていただく。学区の話は簡単に短期的でできるという話ではないので、いろいろなところを視察したうえで、最終的にご意見をたまわりたい。

(4) その他

次回の委員会について

今回は、平成22年5月26日（水）午前9時に開催する。

会議の前に、第三小学校を視察する。